

# 2025年度 日本中体連バレーボール競技部 審判規則委員会より

令和8年(2026年)4月4日

## ○基本方針よりポイント

- コンプライアンスの意識向上、体罰・暴力・暴言等の根絶
- ルールの本質や精神をよく理解する  
→【ポイント】各種国際大会やSVリーグなどとはルールが違う
- 部活動地域展開でクラブチーム増 → SNS での発信はポジティブな内容を心がける

## ○重点指導項目より

(ネット近くのプレイ) オーバーネット、バックブロック、タッチネット などの予測  
(ラストタッチ) 手とボールの接点をよく見る。ダブルコンタクトの場合がある

## ○ルールの取り扱い

(キャッチの判定)

- つかむ・投げる・方向を変える・持ち上げる・手の中に止まる・長くとどまる等、中高生のトスプレーでのハンドリングの向上が課題

(ネットを通過するボール)

- 2回目ではじいて相手方フリーゾーンに飛んだボールは、ネット垂直面を越えた時点で吹笛。両レフェリーは自分サイドのボールに対して吹笛する

(サービスの許可)

- コート上に5人、7人の場合 → 6人になるように促す。ホイッスルしてラリーが始まった場合は、気づいたら罰則なしにラリーをやり直す
- リベロがポジション4にいる場合 → サービス許可のタイミングまで待つ。それでもリプレイメントがされない場合は、セカンドレフェリーを通じて確認後、リプレイメントさせ、遅延の罰則を与える。ラリーが始まった場合は、ポジショナルフォルト
- その他の不法なリプレイメントがあれば、上記と同様の対応で遅延の罰則を与える

(スクリーン)

- サービングチームは、サービスボールがネットを越えるまで、手を頭より上に上げてはならない。

(ポジション)

- サービングチームの選手はサービスヒット時、どの位置にいてもよい。
  - ① ポジショナルフォルトがないわけではない。(コートの外に出たら反則)
  - ② フリーポジションではない。(フロント、バックの区別はある)
  - ③ 戦略的にスクリーンを形成することは許されない。
  - ④ ブロックの戦術としてマークして寄ることはサーバーを隠してなければ許される。
  - ⑤ レフェリーはそのチームがレシービングチームになった時に、フロント・バックなどのポジションを確認しておかなければならない。

(フェアプレイ)

- 毅然とした態度で、些細なことでも早い段階で対処すること。
- レフェリーに質問できるのはゲームキャプテンのみ。
- 監督は試合中、立ちながらも歩きながらも指示を出すことができる → その言動が選手に与える影響を考え、適切な指導であるかどうか、レフェリーが十分に注意を払う必要がある。
- ラインジャッジの判定に影響を与えるような位置にいることもコントロールする。

### (チェンジコート時のチェック方法)

- セット間はラインナップ通りに並ばせて、セカンドレフェリーとスコアラーが別々にチェック
- フルセットのチェンジコート後のチェック時も同様に行う

## 【昨年度の各種大会での事象より】

### (ファーストレフェリー)

- ① キャッチが厳しい → 吸い込み時はほぼ起きない。片手のプレイはムーブがなければ OK
- ② セッターのクイックへのトスがダブルコンタクトのケースが見逃されている
- ③ ハンドリングで吹笛後の攻撃は絶対にさせない。止めること
- ④ バックセッターがフロントゾーンで、ネットの垂直面より上で上げたトスが、ブロックに直接当たったり、相手コートに返ってしまうケース → バックプレイ
- ⑤ 監督や選手が LJ へのアピールを許してしまっている

### (セカンドレフェリー)

- ① 試合前のハドル(円陣)の人数確認。コート上6人+リベロ1人=7人が最大
- ② タイムアウトは選手は一旦コートを離れる必要がある → 早く戻っても良い
- ③ ワイピングのタオルを誰も持っていない(ワイピングはチームの責任)
- ④ 試合中、ゲームキャプテンを確認していない → 必ず監督に確認 → ファーストに伝え、該当選手に手を上げさせる
- ⑤ ネット際に目を残していない
- ⑥ セカンド側のネットやポール関係、ホイッスルできていない
- ⑦ ベンチコントロールをしていない
- ⑧ 相手コートへのガッツポーズを見逃さない(させない)早めのステージ1を
- ⑨ タイムアウト明け、戻りが遅いのを促さない
- ⑩ ラインナップシートを手に持ったままである
- ⑪ 腕時計ではなく、ストップウォッチやスマホで時間計測をしている
- ⑫ セカンドレフェリーが計測せず、スコアラーにさせている
- ⑬ 相手チームに向かって、相手選手のことを言うのは良くないことである「○番クイック」「○番打ってこない」特に監督がそのようなことを言うのは良くないので、早めにコントロールしていく

## 【ユニフォーム規定の確認】

中体連の規定とヤングクラブ連の規定が違う。ヤングクラブ連は全て JVA 準拠のため、中体連の試合に出る時は注意が必要。(JVA の HP 参照)

## 【その他】

- ルールブックは JVA の HP から見るできるようになった。
- シューズの紐について。
- ぜひ県大会や近畿大会に出務してほしい。国際レフェリー、アジアレフェリー、カテゴリーレフェリー(SVリーグレフェリー)がたくさんいます。とても参考になると思います。また、県協会主催大会や SV リーグにも出務してほしい。

<資格取得講習会>令和8年8月11日(火・祝) @神戸学院大学附属高等学校(予定)  
→B 級希望者は県協会主催大会へ積極的に出務する必要あり(希望者は藤井まで)